拝啓　大谷吉継殿

あなたがこの世を去って四百年余り、現在を生きる私達は、あなたの事を文字を通じてしか知ることができません。しかし、あなたが亡くなった関ヶ原を幾度も訪れますと、あなたがどんな決死の思いで戦さに臨んだかがわかる様な気がします。

あなたが三成に与えた様々な助言、西軍の総大将には決してなってはならぬ事。あるいはこたびの家康との戦さで何より求められるのは、自らの命を投げ出す程の覚悟なくば、到底勝ちは望めない事、さらには、病いの身で先が長くはないと感じていたあなたは、この大戦さを最後の戦さと考えていたであろう事。主君秀吉は既に亡く、三成が家康に討たれるところなぞ見たくないあなたは、裏切りの疑いの濃い小早川秀秋への盾となるべく、一歩も引かぬ決死の覚悟だった事。私は、あなたが戦さのない世を必死に願って戦った武将だと思っています。ご冥福をお祈りします。